

あなたへのメールコンテスト報告書

コンピュータとインターネットの特性を活かして
それぞれの思いを伝えよう



平成20年1月28日
毎日パソコン入力コンクール

1. 概要

毎日パソコン入力コンクール第Ⅲ類は、パソコン入力によって行われる情報発信をテーマにしています。発信の類型としては意見発表、新聞作り、ホームページ作りなどが挙げられますが、今回は、実験的に情報発信能力として「電子メール」による情報発信を実施し、優秀な生徒を表彰いたしました。

2. 目的

「あなたへのメール」を審査、表彰し、コンピュータによる情報手段の活用を普及させること

3. 参加資格

中学生（全国中学生ものづくり教育フェア全国大会「パソコン入力コンクール」和文 A 中学生参加者の内希望者）

4. 募集方法

毎日パソコン入力コンクールに参加している中学校、各種団体、個人にメールなどで告知。参加者を募りメールにて事前申込み受付。

5. あなたへのメールコンテスト実施内容

全日本中学校技術・家庭科研究会など主催、毎日新聞社共催、全国中学生創造ものづくり教育フェア体験コーナー（メルコン）として実施しました。

（1）実施日時

平成20年1月26日（土）

受付時間 13:50～14:05

競技時間 14:10～14:30

（2）競技方法

① 参加者はメールを受け取る

友達からのメール（今回のテーマは、「部活テニス」）

② 参加者は受け取ったメールに返事を書いて返信

③ 審査委員が審査を行い優秀なものを表彰

※競技時間は15分

※書式は自由。文章は未発表のオリジナルのものに限る。そして日本語を大切にする精神で競技に望むこと。

※メールの編集はコピーペースト機能を活用可。ただし相手の文章の引用は禁止。また、パソコンの機能を活用する意味で、インターネット辞書、電子辞書なども使用可能。

※優秀作品はホームページなどで公開。そのことを前提に競技に参加すること。

（3）審査員

文部科学省初等中等教育局 教育課程課 参事官付 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官

上野 耕史

毎日パソコン入力コンクール 運営顧問、元毎日新聞社 紙面審査委員

文章表現講座講師（東海大学短大、書写検専修学園）

谷口 泰三

※平成20年1月26日（土） 14:30～15:00に審査を行いました。

(4) 審査

A. 評価の観点

ア. 谷口顧問評価項目

- ①メッセージ性（主張の正しさ、共感できるか、訴える熱意のほど）
- ②表現力（構成の巧拙、語彙の豊富さ、ルール遵守）
- ③入力技量（字数、正確さ）

イ. 上野調査官評価項目

- ①正しい言葉（正しい言葉を使っているか）
- ②内容（共感できるか、訴える熱意のほど）
- ③情報手段活用度（ルールを遵守して、メールの特徴を生かしているか）
- ④入力技量（正確さ、適切な文字数）

B. 審査基準（4段階）

- 4 = 大変よい
- 3 = よい
- 2 = できている（普通）
- 1 = あまりできていない（もう一歩）

6. 特別賞と表彰対象

一位から三位を表彰

7. 表彰（競技会場で実施）

(1) 結果発表

平成20年1月26日（土） 15:15

(2) 表彰式

平成20年1月26日（土） 15:20

8. 参加費

無料



競技の説明をする谷口顧問

9. 参加者

No	氏名	フリガナ	県名	学校名	学年
1	関 萌美	セキ メグミ	兵庫県	神戸市立白川台中学校	1年
2	関根 瑠莉	セキネ ルリ	茨城県	大洗町立第一中学校	3年
3	柳田 郁恵	ヤナギダ イクエ	茨城県	筑西市立協和中学校	3年
4	小河原 満智	オガワラ マチ	茨城県	筑西市立協和中学校	3年
5	板橋 真絵	イタバシ マイ	茨城県	筑西市立協和中学校	1年
6	中野 瑞保	ナカノ ミズホ	茨城県	筑西市立協和中学校	1年
7	高坂 美紗子	コウサカ ミサコ	兵庫県	神戸市立押部谷中学校	1年
8	浅田 美優	アサダ ミユ	東京都	青梅市立西中学校	1年
9	吉田 桃	ヨシダ モモ	東京都	青梅市立霞台中学校	3年
10	橋本 愛	ハシモト アイ	福井県	福井市立光陽中学校	3年
11	佐々木 悠	ササキ ユウ	茨城県	日立市立豊浦中学校	2年
12	沼田 あゆみ	ヌマタ アユミ	茨城県	日立市立十王中学校	1年
13	中川 綾子	ナカガワ アヤコ	兵庫県	姫路市立山陽中学校	1年
14	中川 沙也香	ナカガワ サヤカ	兵庫県	姫路市立山陽中学校	3年
15	齋藤 沙緒理	サイトウ サオリ	茨城県	高萩市立松岡中学校	3年
16	内山 清香	ウチヤマ セイカ	茨城県	高萩市立高萩中学校	1年
17	鈴木 沙彩	スズキ サアヤ	茨城県	日立市立日高中学校	1年
18	國井 涼成	クニイ リョウセイ	茨城県	高萩市立高萩中学校	2年
19	長坂 真衣	ナガサカ マイ	愛知県	名古屋大学教育学部附属中学校	1年
20	齋藤 仁美	サイトウ ヒトミ	茨城県	日立市立日高中学校	1年



熱心に競技に臨む参加者たち



熱心に競技に臨む参加者たち

10. 入賞者

順位	氏名	件名	学校名	学年
1位	関根 瑠莉	Re：部活テニス	茨城県大洗町立第一中学校	3年
2位	高坂 美紗子	Re：ガンバって！	兵庫県神戸市立押部谷中学校	1年
3位	齋藤沙緒理	Re：部活テニス	茨城県高萩市立松岡中学校	3年



上野調査官による表彰



喜びの受賞者たち（右二人目から左に高坂さん、関根さん、齋藤さん）

11. 入賞作品

【第一位】

氏名： 関根 瑠莉

学校名： 大洗町立第一中学校

学年： 3年

件名： Re：部活テニス 宛先：田中洋子<y-tanaka@maipaso.net>

本文：

こんにちは。洋子！

本当に久しぶりだね♪そっちも元気にしてた？

私のほうもすごく元気に学校生活を送ってるよ！

私も最近ゲーム買ったんだ。洋子は何のゲーム買ったの？

今度、遊ぼうね (>w<)

そういえば、相談の話だけど、私はパソコン部に入ってるんだ。どちらかというパソコン部はイメージと違ってすごく明るいし楽しい部活だよ。

洋子の学校のほうにパソコン部ってある？

でも、あったとしても、私は洋子にテニス部やめてほしくないよ。

4月から始めて今まで続けてきたわけだし、最後までやりぬいてほしいよ。

こんな事言うのも、実際に私が「ソフトテニス部」に入部したんだけど、同級生と性格があわなくてすぐにやめちゃったんだ・・・。洋子に黙ってて悪かったけど・・・。だからこそ、私は洋子がテニス部入ってくれてすごくうれしかったんだ。先輩だって、悪気があったわけじゃないし・・・せっかくだから続けてよ部活！お願い！

また、先輩に何かやられたら私に相談してよ。いつでも相談のるから。

洋子だって今までがんばってきた部活やめたら悔しいと思うよ。私も本当は悔しかったから。友達の前では「ぜんぜん大丈夫」だって言ってたけど、内心は悔しかった。自分のやりたかった部活をくだらない理由でやめなきゃいけなくなったから。

洋子には私と同じ体験してほしい。だからお願い・・・。絶対にやめちゃだめだよ。

どんなにお勧めの部活があったからって途中で投げ出したら今までの苦労が台無しになるから。大丈夫私はいつでも洋子の見方だよ。練習がつらくなってもまたいつもみたいに相談してよ！私たち友達でしょ。(>ω<)

これよんで勇気出してよ！

関根 瑠莉より

(文字数：686)

【第二位】

氏名： 高坂 美紗子

学校名： 兵庫県神戸市立押部谷中学校

学年： 1年

件名： Re： ガンバって！ 宛先： 田中洋子<y-tanaka@maipaso.net>

本文：

田中さんへ

久しぶり！

私もとても元気だよ！

私も、毎日インターネットで遊んでいるから、
けじめをつけるようにってずっと言われてます…。

一緒だね (^皿^*)

テニス部に入ったの??

実は私もなんだ!! (>▽<)

練習がしんどいっていう気持ちはすごくわかるよ…。

確かに先輩も、細かいところまでいろいろ言われるとむかつくよね…。

でも、私はテニスが大好きだし、

『うまくなりたい!』ってすごく思うから、

つらい練習もうっとうしく感じる先輩も、

乗り越えてずっとテニスが続けたいって思ってるんだ (*^__^*)

それに、今までの部活の中で仲良くなった友達たちと一緒に、

いろいろな大会で優勝を目指すのはとても楽しくて、すばらしいことだと思うよ!

これからどんどんテニスもうまくなっていくはずだから、

練習もつらくなっていくかもしれないし…。

うっとうしく感じる先輩たちとも、

良い関係になれるかもしれないよ!

私はそう思うんだけど、

田中さんはどういう気持ちなのかな??

もし、いろいろ考えてみてもやっぱりテニス部をやめたいって思うなら、

吹奏楽部とかの文化部はどうですか??

文化部も、つらいことはあると思うけれど、

テニスに比べて体力的には楽だと思うよ!

もしまた悩んだり、つらいことがあったら私に言ってください！
あんまりいいアドバイスはあげられないかもしれないけれど、
私なりに相談にのるからね！

高坂より

(文字数：579)

【第三位】

氏名： 齋藤沙緒理

学校名： 茨城県高萩市立松岡中学校

学年： 3年

件名： Re： 部活テニス 宛先： 田中洋子 <y-tanaka@maipaso.net >

本文：

洋子さん、こんにちは。

本当にお久しぶりですね。私はとても元気です！！

洋子さんも元気でなによりです。

私は、最近ゲームはやっていないけど、ピアノを弾くことに夢中になっています。

夢中になっていることは違っても、自分が楽しいと思っていることをやっているのは、ストレス発散になって、いいと思いますよ。けど、やり過ぎない程度でゲームを楽しんでね。

部活を変える！？

それはどうかと思うよ。

だって、自分がやりたくて選んだんだから、先輩が厳しくても、しょうがないと思うよ。私は実は、バレーボール部に所属していたんだけど、本当に先輩が厳しくてやめたくなった日もあったよ。そういう時は、友達に相談したりして、いつも過ごしていたんだけど、今思うとバレーをやめなくてよかったと思うよ。そのとき、私がバレーボールをやめていたら、今まで一緒にがんばってきた仲間といざらくなるもん。それに、仲間との友情が芽生えるしね！！

だから、部活を変えることはお勧めしないよ！先輩が部活を引退したら、洋子さんたちの時代なんだから、もっとがんばってみて！

もしも、それでもだめだったら、私はバレーボール部をお勧めするよ。

バレーは6人でやるスポーツだから、きっと、みんなでがんばってやるのが大切なことがわかるはずだよ。

また、何か相談事があったら、遠慮なくメールしてね。

いつでも、相談に乗ってあげるから（うまいことはかけないと思うけど(汗)）

悩みすぎちゃだめだよ。体に悪いから…。そんなときは、おもいきり運動してストレス発散だよ！！

それじゃまたね。

結果待ってます！！（^-^）／

（文字数：663）

12. 審査講評

メールで育つ「新文体派」

メール文はこれまでの文章表現作法だけでは評価できない新しい文体であり、表現手段である、というのが今回のトライアルでの実感でした。文面を全体デザインで読ませる“新文体派”が育っているようなのです。一方で「文が人なり」であるのは共通しているとも思いました。問題文作成から審査まで関係者が協議して進めましたが、トライアルでもあり審査員の一人の私見として審査評をまとめました。各方面からご意見をいただき、よりよいコンテストにしていきたいと思います。(谷口 泰三)

初めての試みであり、まずは評価の観点作りから悩みました。決してウェブに堪能でない私が見落としていたのはITならではの情報活用能力が発揮できているかという観点でした。相手の文章を引用したり、役立つ情報を例示したり、顔文字、絵文字などで表現の幅を広げることは大事な機能の活用です。しかし、旧来のアナログ文章作法に傾きがちな私は、これらの観点が必要だとの提案をやや消極的な気持ちで受け入れました。

問題文(着信メール)の作成でも悩みました。競技参加者の返信メール文が着信メールの内容、文体に引きずられるのは当然です。また、旧来の文章表現書式でしばっては、リンクやフォント・文字色の変更、顔文字などウェブならではの機能が生かされないでしょう。「使ってもいいんだよ」と競技者にサインを送る意味で顔文字を2箇所ほど入れたのは問題文作成の最終段階でした。かなり及び腰だったといわざるを得ないでしょう。

「長さ」と「うまさ」は比例

さて、本番です。20人の参加者たちがメールを開きました。着信文面を読んでいたのは平均で1,2分でしょうか。手元を見ないで一斉にキーボードをたたき始めました。タン、タンとリズムカルな音が会場に響きます。規定の15分はあっという間に終わりました。あまりのスピードに「どうでもいいような文章が並んでいるのではあるまいな」と、不安がちらりと頭をかすめました。中学校の技術分野教科書に電子メールを送信するときの留意点の第一として「意味のない内容を送らないように」とあったのが思い出されます。

競技が終了し、採点画面を開くと20人の返信メールが並んでいます。まず驚いたのはその長さでした。実は当初は200~300字ぐらいの幅かと推測していたのです。実際には平均は357文字でした。400字を超える人が何人もいます。600字以上も2人。600字といえば原稿用紙1枚半です。どのような内容にしる中学生が15分で1枚半書くのはなかなかの筆力と言えるでしょう。

問題は内容レベルですが、ひとつの発見は字数の多いほうが内容も濃い、という関連性でした。字数が多ければ良いというものでは決してありません。今回の問題の場合、回答者がどれだけ親身に、説得力を持って返信メールを書けたかが問われます。そのメッセージ性の度合いが今回のコンテストでは字数に比例した、ということでしょうか。そして思うのは、パソコンによるタッチタイピングという新しい書き方が字数の差を極端に広げたのではないか、ということです。もしそうであるなら、コンテストの参加者が非常に増えた場合、字数で第一関門を構えるということも可能になるでしょう。

文面をデザインして読ませる

さて、メールらしさの象徴ともいえる顔文字、絵文字や記号ですが、生徒たちは問題文のメッセージを正確に受け取り「いつものメールのように打った」という子が多くいました。中にはこれらを全く使わない子もいましたが、読み手（審査員）としては全体を読んでいくうちに、適度に絵文字などが散りばめられていないと違和感を覚えるようになったことは正直に言っておきたいと思います。「特に一つひとつの絵文字に意味はないの。全体の雰囲気作りというかデザインというか」と解説してくれた女生徒の言葉が印象的でした。

デザインといえば、文面も従来の文章表現作法では律しきれないものと言わざるを得ません。段落を切る、新しい段落の文頭は1字あけるというようなアナログ文章作法は全く考慮されていないのです。数行ごとに空白が入ったり、一文の長さがそれぞれ違ったり…。私が文章表現講座で教えている学生たちに、段落を切るという概念を全く持たない者が沢山いるのはこうした影響かもしれないと気付きました。文章を全体的なデザインの中で読ませるという新文体派が育っているのではないのでしょうか。メール文を審査するに当たってアナログとは別の文章作法を認めざるを得ない、というのが私なりの結論でした。

共通する「文は人なり」

今回は問題文が及び腰なこともあって競技者はITらしさをあまり活用しなかったのかな、という気がします。将来的にはリンクの活用などさらにITの情報活用度が増していくのでしょう。

しかし、アナログ文章とはいろいろに異なるメール文を読んでいて思ったのは、文章を表現する基本は人柄であるということはアナログもメールも共通しているということでした。今回の参加者の文章を読んで感じたのは、いずれも人生を前向き、肯定的に受け止め、友人を励まそうという思いやりに富んでいる、ということでした。「文は人なり」。中学生らしい清々しさにあふれ、言葉使いもくだけた中にもそれなりの節度を持っていたと思います。

一位になった関根瑠莉さんは、メールの発信者と同じテニス部退部という経験があつて、それを上手にメールに織り込みました。「だから楽でした」と彼女は謙遜しますが、ふだん自分の生活をどこまで深く考えているかが現れるのが作文、という意味で今回のメールコンテストはまさに作文コンテストそのものだったとも言えるでしょう。



メールコンテスト表彰式会場

13. 資料

(1) 課題 (メール受信の画面)

毎パソ体験コーナー あなたへのメールコンテスト

【課題】
次のメールは、差出人の田中洋子さんが、小学校のときの仲よし友達4人に送ったものです。受取人の4人と田中さんは別の中学に通っています。渡辺君、鈴木君、山田さん、中村さんへのいずれかになったつもりで、返信してください。
メールの機能を活かしながらも情報モラルを守り、正しい日本語を使い、親しき相手にも礼儀正しく書きましょう。

件名: 部活テニス
差出人: 田中洋子 <y-tanaka@maipaso.net>
宛先: 第一小学校の同級生のみんなへ

渡辺君、鈴木君、山田さん、中村さんへ

こんにちは。洋子です。
お久しぶりだけど、みんな元気？
わたしはとっても元気よ。

最近、買ったばかりのゲームにかなりハマっています。
でも、勉強しなさい！と親が怒ってうるさいんだけどね・・・！orz

ところで、みなさんに相談があってメールしました。
じつは、私は今、中学の部活でテニスをしているんだけど、
春になったら部活を変えようか迷っているんだ～。

テニスは4月からやっているんだけど、最近練習が辛い・・・
というか、正直、先輩が厳しくてウザいんだよね・・・。

そこで、他の中学に行ったみんなはどんな部活を
しているのかな～と気になり、聞いてみようと思いました。
オススメの部活や活動があったら教えてください！m(_ _)m

田中洋子より

あなたは上記のメールを受け取りました。右の返信ボタンを押して返事を書きましょう。 返信

(2) 回答 (返信メール画面)

毎パソ体験コーナー あなたへのメールコンテスト

Re: 部活テニス (制限時間: 15分)

氏名、学校名、学年、本文を入力して、メールを書きましょう。書き終わったら、送信ボタンを押して送信してください。

氏名:	<input type="text" value="田中 花子"/> (例)田中 花子
学校名:	<input type="text" value="茨城県つくば市立〇〇中学校"/> (例)茨城県つくば市立〇〇中学校
学年:	<input type="text" value="2年"/> (例)2年
宛先:	<input type="text" value="田中洋子<y-tanaka@maipaso.net>"/>
件名:	<input type="text" value="Re: 部活テニス"/>
受信文:	<p>渡辺君、鈴木君、山田さん、中村さんへ</p> <p>こんにちは。洋子です。 お久しぶりだけど、みんな元気？ わたしはとっても元気よ。</p> <p>最近、買ったばかりのゲームにかなりハマっています。 でも、勉強しなさい!と親が怒ってうるさいんだよね・・・!orz</p> <p>ところで、みなさんに相談があってメールしました。 じつは、お休みの中学の部活をテーマにしているんですけど</p>
本文:	<input type="text"/>

文字

受賞者の喜びの声

【第一位】 関根瑠莉 茨城県大洗町立第一中学校 3年

――受賞のお気持ちは？

1位を取れるとは思っていませんでした。本当にうれしいです。今回が初めての大会ということで、緊張しましたが自分の力を出しきることができました。

――苦労したことは

どういう文にするか、友達に対する言いかた、友達に対する思いやりをどう表現したらいいかなどが難しかったです。

――工夫したこと

自分が一番に伝えたいことを率直に伝えられるようにしたことと、“メール”という形をうまく利用したことです。

【第二位】 高坂美紗子 兵庫県神戸市立押部谷中学校 1年

――受賞のお気持ちは？

良い結果を残せたのでとても嬉しいです。できればまた、次のメールコンテストも参加したいと思います。

――苦労したことは

友達へのメールということで、普段と同じように、素直に思ったことを自分なりに表現しました。顔文字なども使ってよい、ということだったので、いつものメールと同じような感じで表現できたと思います。

――工夫したこと

課題を見てすぐにメールの返信内容を考え、書かないといけないので、少し大変だけれど、普段のように、友達からきたメールに返信するだけだと思うことで、スムーズに文章を書き進めることができました。

【第三位】 齋藤沙織理 茨城県高萩市立松岡中学校 3年

――受賞のお気持ちは？

課題文書を入力することと、友達にメールを書くこととは、やはりメールの方が打ちやすかったです。メールだと自分の友達に書く感じで打てるので、自由があり、気楽に挑むことができました。

――苦労したことは

相手を読んでいて、イヤな気分にならないように、考えながら打つのが大変でした。しかし、相手が嫌がる文を打たないようにすることは、大切だと思うので、またこのメールコンテストに参加して、文の感じをつかんでいきたいと思います。

――次の目標は

今日はとても良い経験になりました。これからもこの経験を活用していきたいと思います。